

進捗状況報告

2016.5.19 事務局 河中

関係各位にホームページ開発の進捗状況を報告します

1 方針

- ① 錦帯橋文化紹介。徴古館にこだわらず全国の美術館も調査
- ② 河床下の3層の石畳や橋脚の石垣は創建時のままと主張する
- ③ 錦帯橋創設の背景。

2 進捗率 約45%

既存 HP の乗り換え : 90%

新 HP の Frame : 90%

データ収集 : 60% (傍証)

論旨の整理 : 30% (主眼点、証拠など)

3 最近実施した内容

① 国立国会図書館の公開電子書籍調査

明治・大正時代、多くの本が錦帯橋を紹介している

② 錦帯橋国際シンポジウム第一回～第三回を読み込んだ

北京大学の先生が、中国のアーチ橋は錦帯橋と違うと言っており参考になった。

③ ネット検索で橋の写真を収集した

岩国図書館蔵書の「世界の橋」で紹介していた1673年以前の橋で、観光客が写した写真をDownloadした。やはり、日本では柱橋が主流だった。錦川では流失する。また、石造アーチ構造は古代文明から存在し、3000年位で熟成してローマ帝国で発展した。上からの力に強いが横からに力に弱い。つまり洪水のある河川では崩れるので凱旋門、湖、運河、玄室、水道などにしか使っていない。

錦帯橋は、洪水対策と1000人の重量に耐える構造を持ち、画期的と考える

④ 新旧橋脚石積写真を比較

昭和25年、橋脚が2基崩落したが徴古館保有の写真1000枚に当時の橋脚が詳しく写っていた。石に番号をつけ復元している

⑤ 真実性：「錦帯橋の特徴的構造」、「橋脚の石は創建時のまま」を考察中

⑥ 島津先生と交渉：写真家集団で、神楽など伝統文化の写真を保有している

4 課題

- ① 徴古館で、錦帯橋関係の浮世絵・掛け軸等を調査
- ② 過去の講演会資料・錦帯橋関連図書の収集

5 その他

錦川が全てを洗い流すので、昔、横山周辺は山・川・海が混沌とした風光明媚な所だったらしい。